

『転がった』

3歳児

11月伏見こども園

エピソード

みかん組の数名の子ども達が園庭にある築山に登ったり下りたりすることを楽しんでいました。



何度も上り下りを繰り返しているうちに、Aちゃんが「高いね」Bちゃん「坂道やから転がりそう」と話していました。一緒に登っていた保育者も「ホントだね、坂道だ」と言いました。



Aちゃんが、「ボール!」と言いながら走りだし、Bちゃんも一緒にボールのある方へ走りだしました。そして、転がし遊びの場に置いてあるボールやドングリの入った籠を持って戻ってきました。



築山を登り、上からボールやプラスチックのカプセルなどを転がしました。コロコロ転がっていく様子を見て「うわあ転がった!」「もう一回!」と降りてボールを拾ってはまた登り、転がすことを繰り返していました。



転がすことを繰り返すうちに近くにいたC、Dくんたちも遊び出し、「ドングリも転がる」「これも使おう」「こっちは速く転がった」と転がし遊びで使っていたトイを持ってきてトイの中を転して遊んでいました。



保育者の思い

- ・保育者のそばや3歳児保育室前で遊んでいた子どもたちでしたが、広い園庭にも目が向くようになりました。築山で遊び始める姿を見守りたいと思いました。初めは恐る恐る登っていましたが、何度も上り下りを繰り返すうちに足にギュッと力を入れて上手に登るようになってきた姿を認めたり、下りるときのスピードを感じたりしたいと思い一緒に遊びました。
- ・何度も登るうちに、「坂道」というワードが出てきました。普段から保育室や保育室前で坂道をつくって転がし遊びをしていたことがつながり、ここでも転がるかもしれない、転がすことを試し始める姿を見守りたいと思いました。
- ・築山からもボールなどが転がることが分かり、楽しんで何度も繰り返す姿を受け止め見守りました。築山を何度も上り下りすることでバランスをとったり力を入れたりして体を上手く使っていると感じました。
- ・近くで遊んでいた友達も遊びに加わったことで、ボールを転がすだけでなく、ドングリやトイなど違う素材を取り入れ、遊びがさらに楽しくなっていく様子を認めたいと思いました。

子どもの育ちや学び

広い園庭に目を向け、築山に興味をもち登ったり下りたりすることを繰り返している
(自分の遊びたい所へ行く・興味の広がり)

“坂道”というワードから、転がし遊びを思い出し、ボールなどをとりに行く。
(ひらめき・思いついたことをやってみよう行動にうつす)

転がすことが面白いと感じ、何度も繰り返し遊ぶ。築山を何度も上り下りすることでつま先に力を入れ踏ん張ったり、スピードを感じたりしている。
(繰り返し遊ぶ・面白い・体を動かす)

転がすことから、違う素材にも目を向け試してみたり、身近な道具を取り入れて遊んだりする。
(転がすことへの期待・ワクワク・道具を使って遊ぶ・意欲)

家庭だったら…

保育室前で遊んでいた子ども達でしたが、広い園庭にも目が向くようになりました。恐る恐る登っていた築山も何度も登るうちに上手に体を使うようになってきました。子どもたちの“やってみよう”を大切にしていきたいですね。